

順位	氏名（議席）	発言の要旨
1 2	小池 智明（26）	<p>1. ふるさと納税を活用した紙のまち富士市振興策の展開について</p> <p>富士市は誰もが認める紙のまちであるとともに、その進化の先としてCNFのまちの創造にも取り組んでいる。</p> <p>市内には47社・52工場（令和7年1月現在）の紙パルプ生産企業が立地し、さらにそれを支える製紙機械、紙加工、化学薬品、運送等の製紙関連産業が裾野を広く展開し、営業しており、家庭紙（トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ペーパータオル等）は全国生産量の30%強を占めている。</p> <p>しかしながら、近年では、中国等から不当廉売の疑いがある安い家庭紙の輸入が増加しており、本年3月には日本家庭紙工業会等が、家庭紙を守る会自由民主党議員連盟に対し、国内製品保護を目的とした輸入規制施策の整備を早急に行うよう要望書を提出するなど、これまでにないような課題も顕在化してきている。</p> <p>一方、ふるさと納税に目を向けると、富士市へのふるさと納税額はこの数年増加が著しく、令和7年度には100億円を突破し、その大半は返礼品としてトイレットペーパーを求める方々による寄附だったと聞いている。</p> <p>こうした中、ふるさと納税を活用した紙のまち富士市振興策を展開していくべきとの考えから、以下質問する。</p> <p>(1) 富士市の製紙産業の特徴と課題をどう捉えているか。</p> <p>(2) 富士市へのふるさと納税について</p> <p>① 富士市へのふるさと納税額、全国順位及び希望する返礼品の推移はいかがか。</p> <p>② 富士市へのふるさと納税額から、経費と富士市民の他市へのふるさと納税額を差し引いた、いわゆる「真水分」としての寄附額の推移はいかがか。</p> <p>③ 令和6年度ふるさと納税による寄附金の使途の内訳と代表的な事業は何か。</p> <p>④ さらなるふるさと納税額の増加に向けた取組と課題をどう考えているか。</p> <p>(3) ふるさと納税を活用した紙のまち富士市振興策の展開について</p> <p>① 「真水分」を財源に、ふるさと納税の人気返礼品であるトイレットペーパー等の紙製品を生産する製紙産業振興や、紙のまち富士市の情報発信に活用すべきと考えるがいかがか。</p> <p>② 具体的な方策の基本として、「真水分」の一部を財源とする（仮称）紙のまち富士市振興基金の創設と、定期的な積立てに取り組む考えはないか。</p> <p>③ 基金等を財源とする中で、基金活用のための市と製紙業界との協議の場を設置する考えはないか。</p> <p>④ 製紙業界との協議を踏まえ、具体的な製紙産業振興策として、例えば、県工業用水使用料、電気料金及び人材（DX推進、製紙現場）確保・育成経費の補助や、マーケティング（販売戦略）アドバイザーの派遣等に取り組む考えはないか。</p> <p>⑤ 改めて紙のまち富士市の歴史を振り返り整理した上で、それを踏まえたストーリー性のある情報発信等に取り組む考えはないか。</p>